

第7章 廃棄物

1 廃棄物処理

平成26年度におけるごみ総排出量は、表7-1-1のとおり、17,785tで、平成25年度の17,834tに対して、49t程度減少している。(前年度比98.1%)

ごみの種類別では、可燃ごみが15,194t(前年度比99.9%)、不燃ごみが591t(前年度比104.6%)、資源ごみが1,441t(前年度比95.2%)、粗大ごみが312t(前年度比101.2%)、容器包装プラスチックが247t(前年度比98.0%)となっている。

これら可燃ごみなどは資源の分別をした後、君津地域4市及び民間3社により出資した第3セクター方式の株式会社かずさクリーンシステムにて委託処理を行っている。

ごみ排出量経年変化は、図7-1のとおりである。

ごみの減量化、資源化対策としては、各種団体による集団回収が平成3年より実施されており、現在の市への登録団体数は25団体で、実施団体には1キログラム当たり3円の助成金を交付している。

集団回収による年度別実績は、表7-1-2、図7-2のとおりである。

また、生ごみの自己処理及び減量化等の推進を図るため、生ごみ処理容器購入助成金と、平成13年9月からは、生ごみ処理機購入助成金を交付し、ごみの減量化を図っている。

なお、ビン、カン、ペットボトルの分別収集や資源ごみ収集等も行っている。

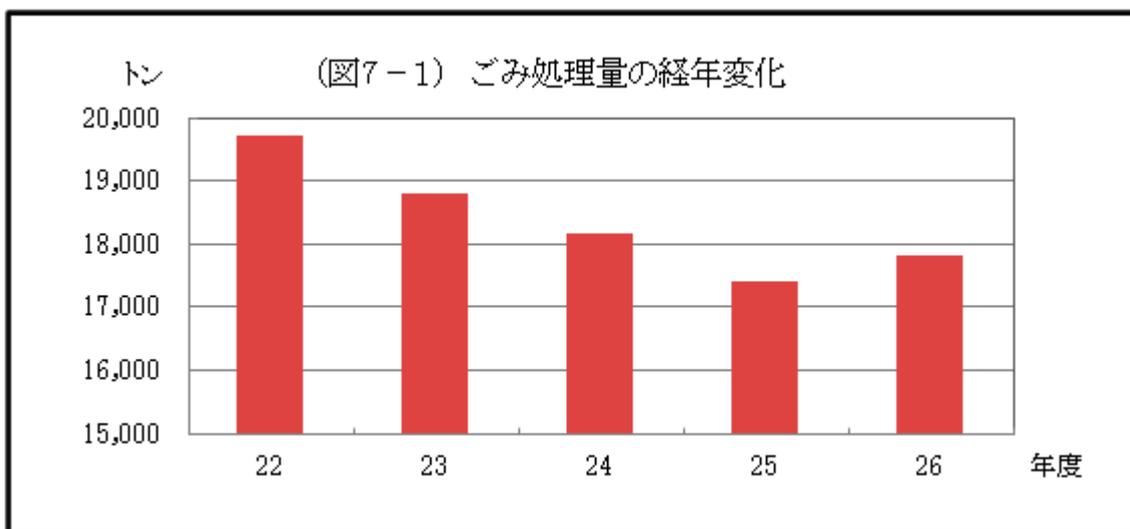
今後もごみの減量化、資源化を積極的に推進し、適正処理の向上を図っていく。

(表7-1-1) ごみの搬入量及び処理量の推移

単位：t

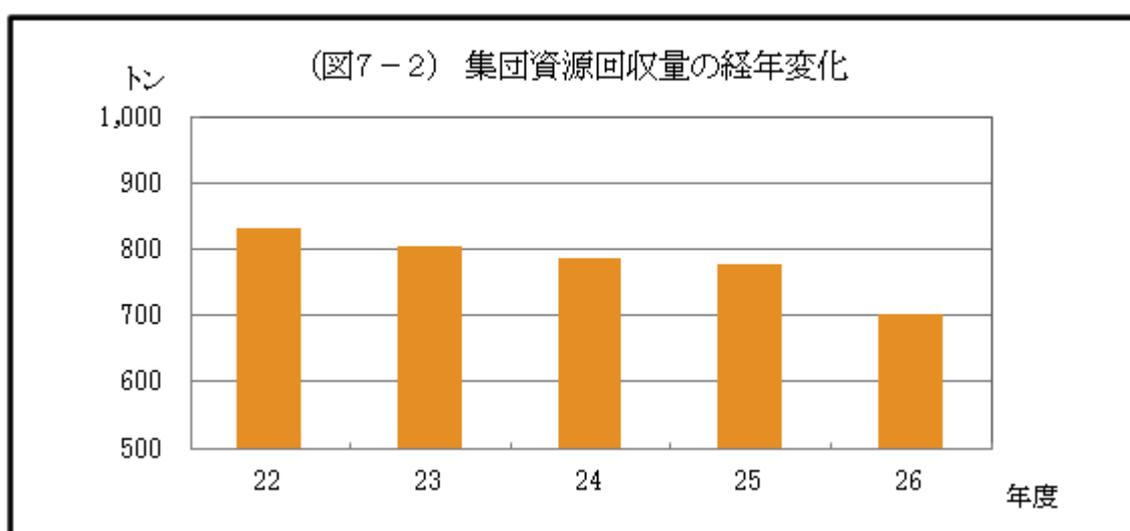
| 区 分 | | 年 度 | | | | | |
|----------------|------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| | | 22年度 | 23年度 | 24年度 | 25年度 | 26年度 | |
| 搬 入 | 可燃ごみ | 16,849 | 16,043 | 15,372 | 15,196 | 15,194 | |
| | 不燃ごみ | 675 | 634 | 592 | 565 | 591 | |
| | 資源ごみ | 1,627 | 1,577 | 1,577 | 1,513 | 1,441 | |
| | 粗大ごみ | 288 | 278 | 334 | 308 | 312 | |
| | 容器包装プラスチック | 252 | 258 | 258 | 252 | 247 | |
| | 合 計 | 19,691 | 18,790 | 18,133 | 17,834 | 17,785 | |
| | 前年度比 (%) | 99.9 | 95.4 | 96.5 | 98.4 | 98.1 | |
| 処 理 | 焼却 | | 18,773 | 17,792 | 17,111 | 16,868 | 16,845 |
| | | し尿汚泥 | 984 | 872 | 844 | 876 | 898 |
| | 再資源化量 | 1,902 | 1,870 | 1,866 | 1,842 | 1,793 | |
| 人 口 (人) | | 48,073 | 47,577 | 47,302 | 46,549 | 46,066 | |
| 一人当たり排出量 (g/日) | | 1,170 | 1,128 | 1,096 | 1,095 | 1,099 | |

※一人当たり排出量 = (搬入量 + 集団回収量) ÷ 人口 ÷ 365日 × 1,000,000



(表7-1-2) 集団回収実績表

| 年 度 | 団 体 数 | 回 数 | 補助金額 (千円) | 内 訳 (t) | | | | 合 計 (t) |
|-----|-------|-----|--------------|---------|-----|-----|-----|------------|
| | | | | びん類 | 金属類 | 繊維類 | 紙 類 | |
| 22 | 24 | 81 | 2,491 | 23 | 9 | 22 | 776 | 830 |
| 23 | 24 | 76 | 2,409 | 22 | 9 | 22 | 750 | 803 |
| 24 | 23 | 76 | 2,359 | 19 | 9 | 21 | 737 | 786 |
| 25 | 25 | 80 | 2,331 | 20 | 9 | 24 | 724 | 777 |
| 26 | 24 | 74 | 2,101 | 17 | 8 | 21 | 653 | 699 |



2 し尿処理

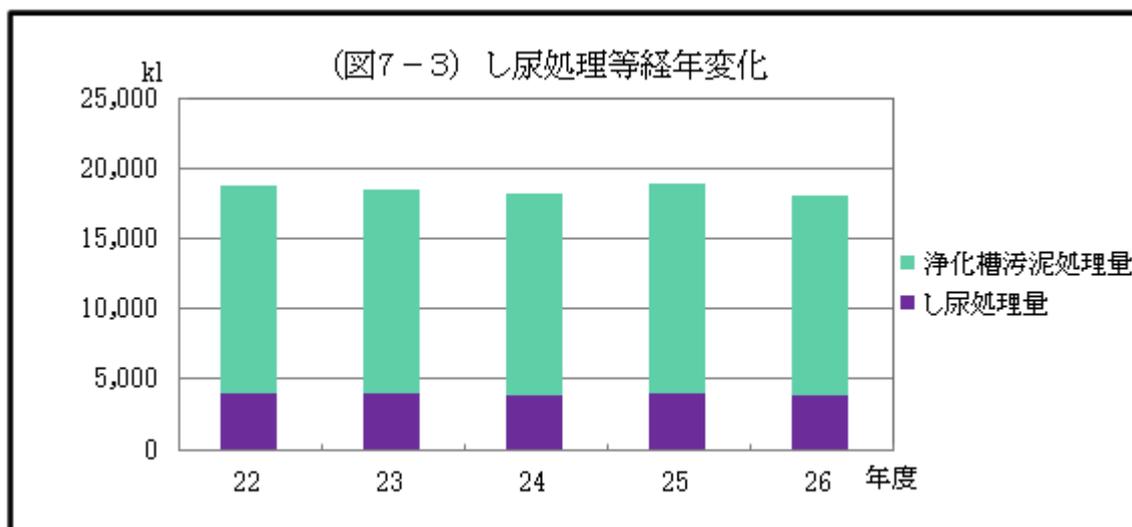
し尿の処理については、海洋投棄を行っていたが、海洋汚染の防止のため、平成18年4月から富津市クリーンセンターを稼働させ、し尿及び浄化槽汚泥の陸上処理を実施している。

平成26年度排出総量は18,012k1（前年度18,838k1）であり、その内訳は、し尿処理量3,756k1、し尿浄化槽汚泥処理量14,256k1となっている。

平成22年からの経年変化は、図7-3のとおりである。

（表7-2-1）し尿処理量の実績

| | 平成22年 | 平成23年 | 平成24年 | 平成25年 | 平成26年 |
|----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| し尿処理量 | 3,907 | 3,837 | 3,779 | 3,928 | 3,756 |
| 浄化槽汚泥処理量 | 14,830 | 14,567 | 14,345 | 14,910 | 14,256 |
| 総排出量 | 18,737 | 18,404 | 18,124 | 18,838 | 18,012 |



3 生活排水対策

生活排水は、大別して水洗便所からの排水と厨房排水、洗たく排水、風呂、洗面排水などの生活雑排水などに区分される。

水洗便所からの排水については、水質汚濁の原因物質を含んでいるだけでなく、病原性生物を含んでいる可能性があるため、公衆衛生上の見地からも慎重な取扱いが必要であり、法的にも厳しい扱いがされている。

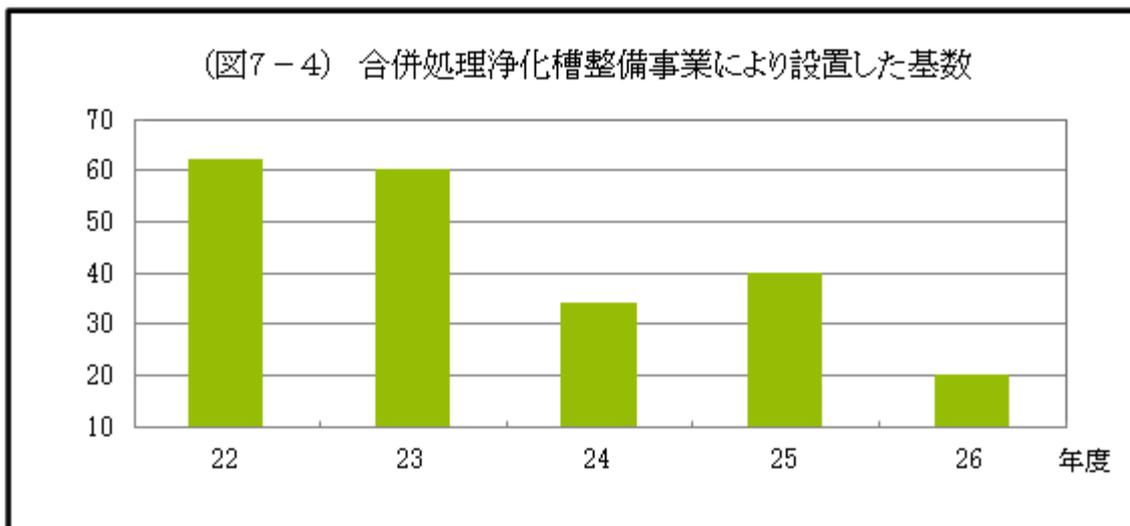
生活雑排水については、いまだに処理されず放流されている所があり、本市においては、「浄化槽設置整備事業補助金要綱」により、し尿と生活雑排水を併せて処理する合併処理浄化槽の普及、促進を図り、また設置者に対し設置費用の一部を補助し、生活排水による公共水域の水質汚濁防止を図っている。

合併処理浄化槽設置整備事業により設置した浄化槽の基数は表7-3、図7-4のとおりである。

(表7-3) 合併処理浄化槽設置整備事業により設置した基数

| 年度 人槽 | 22年度 | 23年度 | 24年度 | 25年度 | 26年度 |
|----------|------|------|------|------|------|
| 5人槽 | 53 | 54 | 29 | 31 | 16 |
| 6～7人槽 | 9 | 5 | 4 | 8 | 3 |
| 8～10人槽 | 0 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 計 | 62 | 60 | 34 | 40 | 20 |

※平成24年度から新規設置の場合の補助対象浄化槽が高度処理型のみとなった。



4 不法投棄対策

不法投棄対策については、不法投棄監視員制度に基づき、地域ごとに監視員を委嘱し、地域内における廃棄物等の不法投棄対策を市に通報する制度を設けている。

また、市や千葉県においてパトロールを定期的実施するなどの対策を行っている。

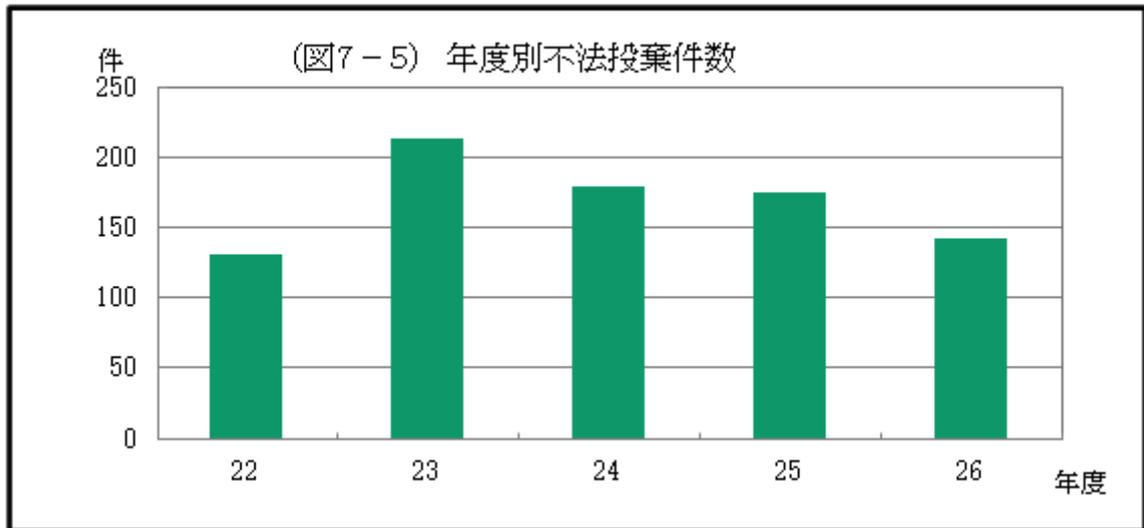
これにより、災害の発生及び自然環境の破壊の恐れのある不法投棄を未然に防止し、市民の快適な生活環境の保全を図っている。

過去5年間の不法投棄の件数は、表7-4、図7-5のとおりである。

(表7-4) 年度別不法投棄件数

| 年 度 | 22年度 | 23年度 | 24年度 | 25年度 | 26年度 |
|--------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 不法投棄件数 | 130 (27) | 212 (40) | 178 (32) | 174 (41) | 142 (33) |

※ 括弧内は不法投棄監視員による発見分



5 埋立て等に関する対策

土砂の埋立て等による土壌の汚染や災害の発生を未然に防止するため、500 m²以上 3,000 m²未満の土砂等の埋立てについては「富津市土砂等の埋立て等による土壌の汚染及び災害の防止に関する条例」により規制を行い、市民の生活の安全確保及び環境の保全を図っている。

なお、平成26年度の条例に基づく申請は14件だった。

また、平成22年度以降の年度別申請件数は表6-5、図6-6のとおりである。

(表6-5) 年度別申請件数

| 年 度 | 22年度 | 23年度 | 24年度 | 25年度 | 26年度 |
|---------|------|------|------|------|------|
| 市条例申請件数 | 3 | 1 | 2 | 1 | 4 |
| 県条例申請件数 | 1 | 0 | — | — | — |
| 計 | 4 | 1 | 2 | 1 | 4 |

